

第15回 JCHO 若狭高浜病院地域協議会 議事概要

【日 時】 令和6年3月14日（木）

【場 所】 若狭高浜病院 2階会議室

【参加者】 山下 泰央 （高浜町保健福祉課長）
柚木 芳則 （若狭消防組合高浜分署長）
井階 友貴 （小浜市医師会）
河島 浩彦 （高浜町議会議員）
廣瀬 とし子 （高浜町議会議員）
横田 行雄 （たかはま地域医療サポーターの会）
秋野 裕信 （若狭高浜病院院長）
治面地 義和 （事務長）
猪子 弘美 （看護部長）
西原 明広 （老健副施設長）
新田 靖之 （副看護部長）
中川 雅光 （事務長補佐【医事】）
吉田 健一 （事務長補佐【経理】）
堀 喜彦 （事務局）

【欠 席】 四方 啓裕 （福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター 医幹）

【議題・概要】

1. 若狭高浜病院の現状報告

当院の現状報告として、西原副施設長より、以下の項目を中心に資料を基に説明した。

- ① 収益状況について
- ② 外来・通所リハの患者(利用者)数について
- ③ 紹介状況
- ④ 救急医療確保状況

- ⑤ 病児・病後児利用状況
- ⑥ 地域貢献活動状況
- ⑦ 地域貢献活動状況

2. 看護職・看護補助者の確保状況

看護職・看護補助職の確保状況について、治面地事務長より、以下の項目を中心に資料を基に説明した。

- ① 看護職数の推移、年齢層
- ② 主な看護師確保対策
- ③ 看護補助職の充足状況
- ④ 外国人介護職員の雇用について
- ⑤ 外国人介護職員の雇用制度について
- ⑥ 留学生制度を選択した理由
- ⑦ 医師の確保状況

3. 外国人介護職員の紹介

当院で勤務する外国人介護職員について、猪子看護部長より、以下の項目を中心に資料を基に説明した。

- ① 外国人を受け入れた経緯
- ② 外国人を受け入れた理由
- ③ 当院の外国人介護職員の紹介
- ④ 外国人を受け入れてみての感想

4. おれんじリングの紹介

当院で毎月開催されているおれんじリングについて、猪子看護部長より、資料を基に説明した。

- ① おれんじリングとは
- ② 参加状況の推移

5. 令和6年能登半島地震被災医療機関への看護師派遣活動報告

令和6年能登半島地震被災医療機関への看護師派遣活動について、江尻看護師長より、資料を基に報告があった。

- ① 派遣先病院の概要
- ② 業務内容
- ③ 院内の状況
- ④ 病棟、町内の様子
- ⑤ 発災時の院内の状況
- ⑥ 被災したスタッフの状況

委員からのご意見・ご質問

委員) 今回の議題にありますコロナの影響で現状病院に来られて診療される方が減っており、コロナの影響なのかなと思うところもありましたし、事務長からも話がありました看護師などの人材不足ということと、外国人職員の件は介護・障がいの施設関係の件費の補助の制度を設ける予定ですが、外国人の制度についてはまだ設けられてないところがありますので、関係各所と調整して、外国人受け入れに対するバックアップができるかどうか考えさせていただきます。

今回の災害の話にもありますように、材料・資材もまだまだ整っていないと思いますので、町の防災部門も今回の津波警報を受けまして、その充実を重視しておりますので、その整備・補助ができるかをあわせて考えさせていただきたいと思っております。

最後に能登の地震についてですが、役場の職員も交代で現地に行っておりますが、かなり厳しい状況ということで、朝早くから 11 時くらいまで作業をしております、1 週間交代でしておりますが 3 月末には保健師の派遣も予定しており、いつ戻るかわかりませんのでしっかり勉強してきたことを活かせるようにしたいと思っておりますし、こういうことを一生懸命皆がやっているということを住民の皆さんが理解して下さることが必要だと思いますので、声を大にしてお伝えしていきたいと思っております。

委員) 現状報告について詳しくご説明いただきありがとうございます。以前の協議会でも申し上げたかもしれませんが、コロナの関係での減収は仕方ないところがあると思うのですけれど、それはそれとして、ご存じの通り人口が減っていて利用率が下がっている点をどう捉えて今後どう見ていくか、長期的な目線での検討も必要になってくると思います。

それから職員不足の件についてですが、看護職員については猪子部長を始め EPA 制度もいわば教育事業の一環と言えますけど、看護教育にご理解あるいはご助力いただいて、実習生の受け入れ、また各大学へのアピール、中学校への早期体験授業へのご協力など、ご助力いただいておりますので多数の実習生もみえますし、夏の救護所についても看護学生さんが増えてきているので良い傾向だと思います。

外国人に限らず看護補助者の確保・育成についてですが、これは全国的に問題となっており、各自治体が支援されていますが、どこの自治体もやっており取り合いのようになってしまっているため、他に

ないような内容の支援を検討いただければと思います。

また被災関係の話ですが、先日の場合では病院に逃げてこられる人もおりましたが、病院の職員、役場の職員もどこまで対応できるか悩んでおられたという話も聞きましたので、人員が足りていない状況でどこまでできるかを検討して、スムーズな体制が立てられると町民の皆さんも安心されると思います。

委員) 詳しく説明いただきありがとうございます。災害のことは重要なことと捉えておりますので、これからも議論していきたいと思います。対応された方々については本当にご苦労様でした。

以前も聞いたかもしれませんが、おれんじリングについて、なかなか足を運ぶ人が少ないと感じています。病院や町の取り組みを町民の皆さんにより知っていただくためには、駅やスーパーなどで掲示できればもっと足を運んでくださるのではないかと思います。よろしく願いいたします。

また、病児病後児の利用が増えてきているそうですが、分かる範囲で何名くらいの登録があるか教えていただきたいです。

病院) 病児病後児の登録者についてですが、高浜町で 88 名、高浜町外(おおい町、小浜市の合計)で 196 名の登録がございます。登録は基本的には町の方でしていただくので当院に登録するわけではないのですが、病児病後児利用のお電話を頂く際に登録がされていない場合がたまにあります。その場合は、高浜町内の方には高浜町役場にご連絡してくださいと案内しているのが実情です。数年前から対象が広域になりましたので、おおい町、小浜市の方も利用可能になりましたし、逆に高浜町の方もおおい町、小浜市の施設を利用可能となっております。

委員) 詳しくお聞かせいただきましてありがとうございます。地域医療について大変ご尽力いただいているのを改めて感じております。看護職等の確保につきまして、私の方でも高校生等に就職先を聞きますと看護師・介護士を目指す女性の声を聴きます。そういった方たちが高浜病院にぜひ入ってきていただけるような施策・制度をアピールして、多くの方に病院で働いていただきたいと思いました。また、外国人職員の方も受け入れられる体制を整える必要があると感じました。

震災に対しては、これだけ備えておけば大丈夫だろうと思うのではなく、考えうる以上の体制を議論しながら進めていきたいと考えております。

委員) 気になった点がございまして、看護師さんの平均年齢が少し若返ったように見えますが、これは 30 代・40 代の非常勤の方が増えてからなのかなと思いますが、その先が不安な気がします。

また、看護職・介護職になるというのは、親がやっているからだとか、親戚から勧められたからという傾向が多いように感じております。町民の医療関係に対しての意識が薄いのを最近痛感しておりますので、PR の増加をお願いできればと思います。

委員) 外来の椅子について、高齢の方が多くいますので背の高い椅子に変更をお願いします。それから電子カルテの更新状況について教えていただけますでしょうか。

病院) 電子カルテの更新は診療報酬改定にあわせ、6月を予定しております。

委員) 日頃は救急業務にご協力いただきましてありがとうございます。お話聞かせていただいた中で、救急の受け入れにつきまして高浜病院さんには大変お世話になっております。

災害派遣につきまして、江尻師長からもお話ございましたが、うちの職員も発災当日の夜には高浜分署から派遣に行っておりました。そこで特に大切だと思ったのが派遣された職員のメンタルケアだと思います。アンケートなどを複数回実施しましたので、病院でもそのあたりの対応をよろしく願いいたします。